

●**予算総会の報告** 5月18日(土)15時から17時 京田辺市中央公民館で開催、社員43名中出席者14名、委任状26人で開催された。2019年度活動方針案と予算案について審議が行われ、提案通り決定しました。そして役員選出では理事候補者メンバーが提案され、全員一致で理事が選出されました。新理事が別室で互選をお行い新理事長に深田三郎様が互選され、本人が決意を述べました。総会最終議案では深田理事長について満場一致で承認されました。

本日の理事長選出によって、新理事による会議を早急に開催して、役割を割り振ることになります。今年度は結成25周年記念事業前年に当たりその企画案を8月末の理事会に提案することになります。検討時間は短く能率よく進めなければなりません。また秋には昨年と同じように竹蛇籠27本を編み上げて、中聖牛の設置を11月末に完成させることになります。今年の年末までの大仕事がぎっしり詰まっております。新しい顔ぶれが揃ってきたので、躍進の可能性が見える体制に整いました。会員各位の一層のご協力をお願い申し上げます。三つ目の大きな柱として3か月前にイベントの企画案の完成に取り組むことが決定されています。これは、これまで幾度もチャレンジした目標ですが、掛け声に終わってきました。新聞記事や自治体の広報誌に掲載するには守らなければならない課題なのです。このままですとスローガン「自然を大切にする仲間の輪を大きくする」の実現には程遠いものになって、会員減少に歯止めがかからなくなります。心機一転、会員確保に向けて、頑張っていきましょう。

●新理事長就任の挨拶

理事長就任あいさつ

深田三郎

理事長職を今回の総会にて指名を頂き大変な役職を背負うことになりました。高齢に達し知力・体力・精神的に衰えを感じている今日です。やましろ里山の会を支えて頂いている多くの会員の方々が応援して頂いていることを考えると、物理的にも不可能な年齢に達していますが老体に鞭を打ち頑張りますのでご指導を賜りますようお願いいたします。里山の会の年間行事日程が組まれています。会員の皆さんが主役ですので是非ともお力添えを頂きますようお願いし、今後ともやましろ里山の会のスローガン「自然を大切にする仲間の輪を大きくする」を基にさらに前進したいと思っていますので会員の皆さんの協力をお願いします。

●**青葉の集い** 5月19日(日)京田辺市中央公民館 展示発表と舞台発表で参加 京田辺市文化協会のよびかけで第27回青葉の集い…サークル交流会に参加しました。この集いは、「地域文化の向上と発展を・・・！各サークルの交流と親睦を図ろう！！」を掲げ、京田辺市の音楽サークルさんを中心に運営されているものです。里山の会は市文化協会に加入してきたので、声がかかったものです。舞台発表では日ごろ鍛えた腕前や舞踊、のど自慢が披露されました。里山の会は普賢寺におけるカスミサンショウウオの成体を10年ぶりに発見し、6億年前の地球に誕生していた生き物であるカスミサンショウウオの成体についてスライドで参加しました。特にナラ枯れ木の撤去によって調査観察活動の安全度が増したことや生育池に集まってくる生き物タヌキやイノシシ、キツネやアライグマ、ノウサギの夜間撮影に成功した事例を動画発表しました。

わかりやすい丁寧なスライドや動画でしたので、高い評価を受けました。展示発表では約10mの長さの展示台に中聖牛設置の説明を披露しました。参加者はほとんど年配の皆さんで、模型に感心されていました。里山の会では、参加されていたのは年配の方々が中心でしたので、木津川での取組にほとんど関心を持っておられないと思われるので、大変いい機会と考え、参加させていただき

ました。予想されていた通り、多くの質問が寄せられました。一つ一つ丁寧に解説させていただきました。感想として、サークルの皆さんばかりでなく可能な限り地域で活躍されている皆さんにぜひご覧になっていただきたいという感想がありました。

●日本屈指の植物学者である村田源先生にまた、光田重幸先生にもご指導をいただいていた「里山の会」では、木津川や里山での植物観察学習会を数多く開催し、その折に触れご指導に恵まれたからです。木津川植物の収集と資料集への編纂、限りない多くの資料集の発行が可能になったからです。特に木津川での採集植物の標本化や標本植物写真集にまとめ上げられたのは先生方のご指導なくして考えられない記念物になっています。里山の会が近畿地方で河川協力団体に認定されて、希少植物の調査保全管理団体として業務の受注が可能になっているのは、先生方のご指導があつてのことです。

●近頃近鉄鉄橋に出向くことがありました。ここは京田辺市の田辺グランド用地として利用されているところです。ここに旧奈良電車の木津川駅が設置され、多くの水泳を楽しむお客様が来られていました。木津川でのイベント人気があったのは金魚流しでした。ひと夏に 2～3 回行われていました。郡山の金魚が使われていたと聞いています。時には拳闘倶楽部の試合も催されていました。すだれで囲まれた茶店でのかき氷が大変美味しかったものです。ところでその金魚流しが浅い砂浜は干しあがって雑草が生い茂っています。水が北側に押しやられてしまっています。そして鉄橋の橋脚から飛び込んでいた所は水面がすっかり低くなって 3～5 m は高くなってしまいとても飛び込んでいたとは想像もできない姿に変貌しています。ここでは滔々と流れていた水が水音高く流れ落ちる崖になっているのです。この石垣は河床が低下したので、近鉄が鉄橋の基礎を守るために築いたものと聞いています。木津川はダムの無い大河だと聞きますが、笠置からカヌーで下ってくるところで崖を超えるために陸に上がって迂回しなければならないことになります。ここで川の砂が流れ落ち河床が低くされた姿が残されているのです。下流の国道一号線に橋脚は大工事が行われ、補強がされています。三川合流の御幸橋は橋が付け替えられました。京阪鉄橋もご覧になってください、きっと何かを感じられると思います。